

# 本の窓

1993年 12月号／特集＝浮世絵再現

## 目次

- 
- 対談／日本の美「浮世絵」の魅力／山口桂三郎 諷訪 春雄 ……2
- 
- ゴッホの見た摺物？—『浮世絵聚花』番外編／稲賀繁美 ……16
- 
- 「広重」への安らぎ／鳥越 碧 ……20
- 
- 浮世絵研究の現状／酒井雁高 ……24
- 
- 甦るポストン美術館所蔵版木／中山吉秋 ……29
- 
- 浮世絵の美を今に生かす苦勞／菊地貞夫 ……34
- 
- おもな浮世絵美術館 ……40
- 
- 連載／熱帯雨林を貫いて②／霊廟の丘にて／三浦太郎 ……42
- 
- 連載／地球のなかで⑤／生きるための死／中村桂子 ……48
- 
- もうひとつの生き方／八王子車人形に賭ける—井上哲夫氏  
丸田淳一 ……50
- 
- 連載／源氏物語への道②／浦島は愚か人か／鈴木日出男 ……58
- 
- 自著を 私の想いのたけ—『十人十色「源氏」はおもしろい』を語る／瀬戸内寂聴 ……62  
語る 昭和文学へのオマージュ—『昭和作家論103』を語る／高橋英夫 ……64
- 
- 私の書評／人の心に晴眼を開かせる不思議な絵本  
—『朝子さんの一日』を読む／阿部 進 ……66
- 
- 私の編集した本／『リメンバー』『日本近代文学年表』他 ……68
- 
- 連載物語／ウメ子とみよちゃん②／ジャングルジム／阿川佐和子 ……72
- 
- 連載／世界美術プロムナード⑩／絵のなかの声（1）／山梨俊夫 ……78
- 
- 連載／わたしのなかの日韓歳時記⑨／戦争のなかの秋夕／尹学準 ……86
- 
- 連載／わが青春の日活撮影所—裕ちゃんがいって、小百合もいた⑥  
吉永小百合、人気上昇中！（3）／広石廉二 ……90
- 
- 読者の窓 ……98 読者フォーラム ……100 表紙解題／山口桂三郎 ……表Ⅱ
- 
- 編集後記・奥付 ……104 小学館出版案内 ……105 カット／江崎 玄

# ゴッホの見た摺物?

—『浮世絵聚花』番外編—

## 浮世絵の知られざる海外遍歴

もの皆すべて水に流してよしとするコピー大国日本では本格的な研究もはじまらぬうちに見捨てられ、どっと海外に「流失」した浮世絵は、時間は流れない、それは積み重なる——と信じているヨーロッパにもたらされるや、日本趣味（ジャポニスム）のブームを呼び、高値で取引されたあげく、あちこちの所蔵庫に堆積し、久しい眠りについていた。明治以来のそうした遺失物を発掘した出版物のなかでも『浮世絵聚花』シリーズは豪華な企画で、今回は愛蔵額装版と仄聞する。

これら歌麿や写楽の名作の発掘のために海外の博物館、美術館を訪れるのは、研究の醍醐味だが、目指す名作に行き着くのはそう簡単ではない。例えばリール市に寄贈されていた、初期の日本学者レオン・ド・ロニーの旧蔵図書の

していたに等しい物品だから、それについて十分な資料を持ち合わせていないのもいざ当然だろう。浮世絵の場合、個々の作品の来歴まではとても辿れないのが通例となつて、つまり日本には類例を見ない天下一本が見つかったとして、それを入手した蒐集家のことも、またどういふ経緯でその流出美術品が今まで生きながらえてきたのかも、容易には判明しない。

けれども、日本人が見捨てた美術品を百年このかた保存してきてきた所蔵元のこと、個々の作品が背負ってきた歴史の厚みも無視してしまつては、作品の「里帰り」もなにか空しい。作品が歴史の中でまどつてきた秘められた年輪は、日欧双方からあらためて光をあててはじめて、われわれの前にその立体的な相貌をあらわにする。

## 忘れられた摺物

例えば、パリ国立図書館には、テオドル・デュレ・コレクシオン旧蔵の摺物が多数保存されている。これはキヨツネ美術館の所蔵品調べにも大きな功績のあったローニヤ在住の近藤映子さんが、持ち前の嗅覚で探り当てた逸品で、一七九七年から一八二二年に至る寛政、享和、文化期の江戸狂歌連研究には願ってもない大発見だった。摺物も北斎（きら摺りの鮑、俊満、辰斎、清長、栄

## 稲賀繁美

いなが・しげみ（三重大学助教）一九五七年 東京生まれ。東京大学、パリ第七大学博士課程修了。美術史、フランス文学、比較文化。著書『印象派時代』後期印象派時代（いずれも世界美術大全集／共著）『歌麿』『クールベ』他。



なからから日本の書籍が「発見」されたのは、つい最近のことだが、これも中国書に分類されていたために長年見過ごされてきた。だが、東洋語通の専門家が存在しない施設に「死蔵」されればこそ、意外な「秘宝発見」もありうる道理で、あたかも有能な専門家が先方におられれば、そのご当人が文化摩擦の犠牲になったり、生きた宝の持ち腐れともなりかねぬのが文化交流の皮肉でもある。

だがこうした「秘宝発見」のニュースが日本のマスコミで伝えられるたびに、不思議と報じられない情報がある。つまり、それらの蒐集集を築きあげた蒐集家の事蹟も、寄贈先の図書館、美術館のコレクションの沿革も、ほとんど触れられることがない。日本側はとかく作品の里帰りに夢中になって、その作品がどのような状況でそこに存在したのかにはあまり興味を示さない。逆に所蔵者側は絵師の名前すらアイデンティファイ（認定）できぬままに「死蔵」

之、歌麿あたりが、少々上品で洗練されすぎの傾向はあるものの軒並み揃っている。これらを画帖にまとめた長島雅秀なる人物については詳しくは知らないけれど、歌舞伎年表や名所図会とも見比べながら解説すれば興味津々の、前代未聞の作品群を提供してくれる。さらには山東京伝描く、七福人に扮した狂歌連が胡粉の雪の隅田を渡し船で行く趣向の瀟洒な大作には、四方歌垣直筆の讃まで添えてあり、酒井抱一周辺の江戸文人たちの交友の実態を今に伝えて、その迫力も生々しい。

これらの摺物を綴じた帖面が天地人と三冊、デュレ旧蔵のものとしてパリ国立図書館に所蔵されていた。だが、それが最近まで知られていなかったのは、有名な、そして同図書館版画部門別室の踊り場二階の壁一面を覆っている、デュレ寄贈の五八一点一三九二冊の画譜、絵手本の類とは別の分類になっていたからである（ついでにいえば特別室所蔵品は、火・木曜の午前中のみ一回五冊までという閲覧規則を守っていたのでは全巻通覧などとうてい覚束ない）。摺物が小さまざまにとりあわせて大判40×30cmの八葉折り畳みの色紙に直接貼りこんであつたためか、織物文様のサンブル綴じ込み帖などといっしょに商品見本の項目に分類され、長らく死蔵されていた。

だが、それだけではこの摺物の価値はまだ半ばしか分

かったことになるまい。これは筆者の推定であるが、ヴィンセント・ヴァン・ゴッホが仲間内で芸術家の共同体を設立する夢を抱き、日本の芸術家がしているように仲間同士で作品の交換をしよう、と提案したときに念頭にあったのは、ひょっとしたらこうした摺物の貼り合わせ帖だったかもしれないのだ。件の交換会なるものは半ばヴィンセントの空想の産物というほかならうが、小さきさまざまな摺物がてんでに貼りこまれたこの種の画帖を目にすれば、日本語の読めないヴィンセントでもそこに作品の交換の跡を認めるのは、いたって容易だっただろう。たしかにヴィンセントの遺品のなかには二代広重の『新撰花鳥図』があって、畏友因府寺司さんは、ヴィンセントの手紙にみえる挿絵との類縁から、これを「日本流の画帖」の発想源と想定されている。しかし、ひとりの画家の手になる連作から芸術家同士の作品の交換を連想するには、なお論理的に飛躍があつて、今ひとつ発見されるべきミッシング・リンクが残っていた。

### ヴァン・ゴッホの夢

さて、テオドル・デュレはヴァン・ゴッホ兄弟のバリ時代（一八八七―一八八八年）に相当する時期に、自分の浮世絵コレクションをパリのモリス・ジョワイヤンに託してい

たことが知られるが、ジョワイヤンとは、同じ浮世絵狂トウールズ・ロートレックの友人だっただけではなく、ほかでもないテオ・ヴァン・ゴッホが狂気に倒れると、そのあとを襲って画商グーピル商会モンマルトル支店長を継ぐ人物なのだ。パリ時代のヴァン・ゴッホ兄弟は同じ日本趣味の画商S・ビングの店へも出入り御免で、その屋根裏部屋で自由に新着の浮世絵に目を通すことができた。ましてや弟の同僚が管理していた浮世絵に兄が目を通さなかったはずもない。普通摺物は商品価値が高いから、一点一点バラして売られる。したがって散逸する以前の収集の姿をヴィンセントが見る機会は、バリ時代、画商の仕事場に入りできたこの期間に限られよう。実際、江戸の狂歌連の手でさまざまな機会に入手した贈答品摺物を貼り合わせたままの姿の画帖は、今日デュレ旧蔵のもの以外には、もはやほとんど類例が知られていないらしい。

エドモン・ド・ゴンクールが『歌麿』を刊行したのはヴィンセントの亡くなった翌年一八九一年のことだが、それ以降、時代物の浮世絵は「アメリカ人たちの介入」もあって急速に高騰し、パリの愛好家たちには、もうおいそれと手が出せなくなったとは、エドモン・ド・ゴンクール本人もぼやいていた通りだ。とすればデュレが件の摺物帖をそっくりそのまま落手できたのも、それ以前と考えたほ

うが妥当だろう。ましてやデュレは一八九六年に、生業のコンヤック製造販売業が、数年来の不況と虫害によるフランス南西部の葡萄畑壊滅のあおりを受けて倒産に瀕したおり、主要な浮世絵を売りに出している。そして一九〇〇年前後には日本人K・カワダの協力を得て残る自分の浮世絵コレクションを国立図書館に破格の安値で寄贈してしま

う。件の摺物が国立図書館に購入された正確な期日を確認できないのが残念だが、わざわざ筆をとってサインをしているところからも、鍾愛の品だったことが感じられる。寄贈されて特別保存扱いとなった膨大な画帖の類には、デュレ自身のサインは見られない。こんな状況証拠から、デュレ旧蔵の摺物をヴィンセントが眺めた様子を空想したい。

ヴァン・ゴッホが空想した日本の芸術家たちの共同体



## Shinshindo

### 能面の美

門外不出の優品、名品を最大成

室町から桃山時代に制作され、能面史上最も重要と考えられる名家所蔵の優品のみ八十面を現寸大にて収録。

原色版印刷により能面のもつ幽玄美と気品を忠実に再現した。

●中村保雄／編著

●牧 直視／写真

●田中一光／装幀

B4判特製ケース入り

内容見本星——— 定価38000円

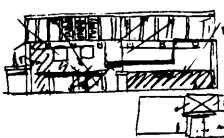
## SHOZO UCHII

建築家のドローイング1  
(世田谷美術館)

内井昭蔵

1989年日本芸術院賞受賞の建築思想を初めて公開。設計のプロセスに表われたスケッチを克明にあとづけながら、著者の設計行為を探る——— A4判上製本

内容見本星——— 定価5800円



### 駉々堂

東京都文京区春日1-9-27 ☎03-3814 6739

書店にない場合は書店で注文いただくか、小社へお電話下さい。代金・送料(310円)着払いにて至急発送いたします。